

第36空輸中隊と陸自 降下訓練で連携 36th Airlift Squadron, JGSDF team up for jump training

November 18, 2022

By Staff Sgt. Branden Anderson
374th Airlift Wing Public Affairs

11月10日、横田基地第36空輸中隊と陸上自衛隊の隊員が、習志野演習場(千葉県)上空からの降下訓練を行い、日米同盟の更なる強化を図った。

今回の訓練では、陸上自衛隊第1空挺団の空挺隊員約121人が第36空輸中隊のC-130J輸送機から降下する訓練を数日にわたって実施し、同航空団の空輸能力と陸上自衛隊員の輸送・投入の実効性を確認した。

第36空輸中隊訓練指揮官のジェフ・ブリュー大尉は同訓練について、「実際の作戦や有事のシナリオに基づき、統合部隊としての対処能力を実践する」そして「今回の訓練で、陸上自衛隊員の(米軍機からの)降下や陸上自衛隊のパスファインダーのもとに米軍の隊員を降下させる訓練を行う」と説明した。

陸上自衛隊のジャンプマスターたちは、第36空輸中隊のパイロットやミッション・プランナーと連携し、降下訓練の総体的な実効性と隊員の安全を確保した。また第36空輸中隊の乗務員は、陸上自衛隊の隊員と直接コミュニケーションをとり、準備段階や飛行訓練で必要な調整を行った。

また、ブリュー大尉は「この訓練で技術、戦術、手順を互いに共有し、空中投下と人員輸送の新しい革新的な方法を見出すことができる」と述べ、「我々は常に陸上自衛隊の部隊と連携を図り、資源を有効活用し、同じ環境下で協力しながら作戦を実行している」と言及した。

今回の降下訓練は、第374空輸航空団と陸上自衛隊の対処能力を実践しつつ、自由で開かれたインド太平洋地域への日米の取り組みを強調する日米間の訓練の一つに過ぎない。

